

根っこと翼

中村 桂子

あっ。
小さなサクランボの木のまわりを
グルグルまわっていたタローは
転んでしまいました

だめだなあ
弱虫だなあ
ワタシなんかこんなに細くたって
倒れたことなんか無いよ

サクランボは
タローが生まれた日に
大喜びのお父さんが植えたのです
生まれたての赤ちゃんくらいの
小さな苗でした

タローは3才
サクランボの木のある庭で
遊ぶのが大好きです

庭には、お母さんが大事にしている
ローズマリーも繁っています
垣根越しにお隣からのぞくカエデは
秋になるとタローの手のような
真紅な葉っぱをたくさん落とします

細い細いサクランボの木が
倒れないのはなぜ
ローズマリーを
摘みに急いだり
カエデの葉っぱの上で
かけまわると
すぐ転ぶタローにはふしぎです

ワタシは
この庭に植えられたその日から
地下に根っこをはってきたのさ

植物には根があります。

根の役割は二つ

一つは、植物の体を支えること。

もう一つは土の中の水や養分を
吸い上げて植物を育てること。

根の先の細胞を見ると、
クルクルまわりながら
先へ先へと伸びています

地上にある芽や葉の細胞は
お日さまに向ってのびる性質をもち
根の細胞には
お日さまから遠くへ遠くへと
進む性質があります。

あれから三年
サクランボの木は
お父さんより高くなりました
春には、
枝いっぱい繁った葉の間に赤い実がなりました

たった三つでしたけれど
きっと根っこは
もっと広く、もっと深くと
伸びていったのでしょう
木はどんどん大きくなって
たくさんの葉を繁らせ
実もいっぱいならせるでしょう

サクランボは
小さな庭のシンボルです
「私が根をはった私の場所」
ゆったりとまわりを見まわしています

ヒヨドリがやってきて
一つ、二つ、
赤い実をついばむと
ヒューッと高い声で鳴き
飛んでいきました

タローは一年生
学校へ行ったり
公園で野球をしたり
大忙しです
かけまわっても
もう転びません
小さな庭は大切な場所だけれど
もうそこだけが
タローの世界ではありません

朝から強い風と雨です
でもサクランボの木は
しっかり立っています
繁った葉の陰に隠れたヒヨドリが言います
根っこがあるって素晴らしいね

ありがとう
でもワタシはいつも思ってるんだ
高い空へ上っていったら
どんな景色が見えるのかなと
翼があるのは素敵なことだよ

野球に行けないので
庭を眺めていた

タローの耳に
こんな話が聞こえてきました

翌日タローは公園の隣の林に
サクランボの木を
見つけました。
小さな小さな木です。

誰が植えたの。
お父さんは答えました。

タローのサクランボの
子どもだよ
ヒヨドリのふんの中にあった
タネから生えてきたんだろう。

サクランボは翼がないけれど
ヒヨドリがタネを運んでくれる
ヒヨドリには根っこがないけれど
サクランボの木が風から守ってくれる
根っこと翼は助け合っているのです

それにね、
三年生になったタローに
お父さんが話してくれました。

サクランボの木とヒヨドリは
兄弟なんだよ

大昔、そう三八億年も前に
地球に初めて生まれた生命
それが祖先さ

それは顕微鏡でなければ見えないような
小さな細胞だったでしょう。海の中の
栄養分をもとに、どんどんふえていき、

その間にいろいろな性質をもつ細胞になって
いきました。二〇億年ほどして、
お日さまの光を使って自分で養分を作れるけれど
動けない植物の仲間と、動きまわられるけれど
植物を食べなければ生きていけない動物の仲間
が生まれました。ですから動物も植物も祖先は一つ、
もちろん人間もその仲間です。
トリの翼と人間の手は起源が同じです。

サクランボもヒヨドリも
そしてタローも
一つの祖先から生まれた仲間
それぞれの生きものは
それぞれの性質を生かして生きていくのさ
サクランボは根っこ
ヒヨドリは翼

でも、ボクには根っ子も翼もないよ
タローは少し悲しくなりました

どうかな
タローは今、お父さんと一緒に
生きものが皆んな仲間だってことを
考えたよね

考えると
タローはどうしてここにいるのか
少しづつわかってくるだろう
それがタローの根っこさ

話し合っていると
タローにどんなことができるか
少しづつ夢がふくらんでくるだろう
それがタローの翼さ

さまざまな生きものの中で
脳が大きくなり、
考えることができるようになったのが
人間です。
考えることによって、
ほかの生きものと一緒に
どのように生きていくのか
わかってくる。
こんなことができるのは
人間だけです。

生きものたちに向き合って
ゆっくり語り合い
人間同士集まって
じっくり考え合う

すると
根っこと翼が生まれるんだ
人間は、根っこも翼ももてる
すてきな力をもっているんだ

ヒヨドリが高い声で唄っている
サクランボの木のことで
タローはつぶやきました
君たちとボクとは
38億年も前からの仲間なんだよ

ぐんと足を踏んばって
青い空を見上げ
そっとささやきました
ボクの大切な根っこと翼